

厚生労働大臣

殿

川崎医科大学附属病院

学校法人 川崎学園

理事長 川崎明徳

川崎医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に
関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第10）
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第11）
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	82.9人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照（様式第12）
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照（様式第13）
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	425人	19人	429.1人	看護補助者	104人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	1人	6.2人	理学療法士	32人	臨床検査技師	82人
薬剤師	37人	1人	37.4人	作業療法士	28人	衛生検査技師	0人
保健師	5人	0人	5.0人	視能訓練士	12人	検査その他	0人
助産師	6人	4人	8.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	708人	41人	726.6人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	2人	0人	2.0人	栄養士	3人	その他の技術員	26人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	1人	事務職員	121人
管理栄養士	27人	0人	27.0人	診療放射線技師	39人	その他の職員	29人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と

常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。

それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	685.8人	4.9人	690.7人
1日当たり平均外来患者数	1,618.4人	50.6人	1,669.0人
1日当たり平均調剤数		2,920.8剤	

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄には、それ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍感受性試験(HDRA法又はCDーDST法)	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	0人
超音波骨折治療法	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	37人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	158人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	抗CD25抗体併用がんワクチン	取扱患者数	63人
当該医療技術の概要			
がんワクチンの開発研究を実施している。癌免疫の抵抗勢力である制御性T細胞を抗CD25抗体で抑制できる基礎研究に基づき、がんワクチンに抗CD25抗体を併用する臨床試験を実施している。(臨床腫瘍科)			
医療技術名	末梢血幹細胞移植による重症虚血肢の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
G-CSFを投与して増加させた末梢血幹細胞を重症虚血肢に局注し、血管新生を促す、肢切断を回避する。(心臓血管外科)			
医療技術名	気管内ステント留置術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
悪性および良性疾患による気道狭窄や気管瘻に対して全身麻酔科にステントを留置し気道を確保するものである。21年度は食道癌気管瘻と気管切開後気管狭窄の2例に実施した。(呼吸器外科)			
医療技術名	遺伝性腎疾患における遺伝子診断ならびに遺伝カウンセリング	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
多発性囊胞腎、アルポート症候群、ネフロン病等の遺伝子解析と遺伝カウンセリングを施行した。(腎臓内科)			
医療技術名	難治性ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレーシス療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
難知性ネフローゼ症候群に対して、LDLアフェレーシスおよび免疫抑制薬の併用により早期の覚解導入をおこなった。(腎臓内科)			
医療技術名	重症筋無力症に対する自己抗体吸着療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
抗アセチルコリンレセプター抗体の高値を示す全身性エリテマトーデス症例において、早期より自己抗体吸着療法を併用し、ステロイド減量による副作用防止や早期の覚解導入をおこなった。(腎臓内科)			
医療技術名	敗血症性ショック、多臓器不全時の持続式血液浄化法	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要			
術後、あるいは重症感染症による敗血症性ショック、多臓器不全時に持続式血液浄化法を施行した。生命予後も非常に改善した。(腎臓内科)			
医療技術名	急性腎不全における持続式血液浄化療法	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要			
急性腎不全における持続式血液浄化療法にて、腎機能の回復をもたらした。(腎臓内科)			
医療技術名	免疫組織化学的診断	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要			
膜性腎症、IgA腎症、ループス腎炎、その他の免疫複合体関連疾患等の確定診断のため、腎生検切片にて、上記技術を施行した(蛍光抗体法)。(腎臓内科)			

医療技術名	電子顕微鏡検査	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要			
腎生検全症例を、電子顕微鏡的に詳細に観察し、正確な病理診断を下すための補助的検査を施行した。特に基底膜変化、免疫複合体(Electron dense deposit)アミロイド線維などの評価に優れた検査である。(腎臓内科)			
医療技術名	CAPD療法での酸化ストレスの把握	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
酸化ストレスは、腹膜機能障害と関連している。核酸の酸化ストレスのマーカー8OHdGを測定し、腹膜機能の補助的情報を得ている。(腎臓内科)			
医療技術名	CAPD療法におけるNO調節系の評価	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
NOは、腹膜機能調節と関与している。NO、NOX、ADMAを測定し、腹膜機能の補助的情報を得ている。(腎臓内科)			
医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
間質性膀胱炎は蓄尿時の膀胱痛および頻尿を主症状とする疾患である。近年その患者数は増加傾向にあるが有効な診断法、治療法がないのが現状である。唯一その中で、診断と治療を兼ねた方法が腰椎麻酔下の水圧拡張術である。(泌尿器科)			
医療技術名	難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
薬剤抵抗性の切迫性尿失禁患者の膀胱壁に内視鏡を用いてA型ボツリヌス毒素を注入し、排尿筋過活動に伴う尿失禁を治療することを目的とする。(泌尿器科)			
医療技術名	前立腺癌に対する腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
局所限局性前立腺癌に根治的治療である前立腺全摘除術を腹腔鏡下で行い、低侵襲性と拡大視野による良好な制癌効果が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	腎細胞癌に対する腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
小径の早期腎細胞癌に対して腹腔鏡下腎部分切除術を行うことで腎温存と低侵襲性の両方が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	赤血球膜異常症の病因解析、遺伝子診断	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要			
赤血球膜異常症の病因解析において、走査電顕を用いた赤血球形態診断、膜蛋白分析、当該遺伝子解析を行い、病因の診断、治療選択に有効であった。(血液内科)			
医療技術名	HIV-1の遺伝子診断	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要			
TaqMan法を用いてHIV RNA量を測定することにより、抗HIV薬の薬剤効果の観察、病態把握に有用であった。(血液内科)			
医療技術名	白血病・リンパ腫関連遺伝子診断	取扱患者数	75人
当該医療技術の概要			
RT-nested PCR 法により、微小残存白血病細胞の検出を行い、臨床的な寛解の判定や再発の早期診断に有効であった。(血液内科)			

医療技術名	脂質異常症における遺伝子診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
脂質異常症の病因検索として、患者の遺伝子解析を行い、診断・治療に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	I型糖尿病におけるHLAの解析診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
I型糖尿病・劇症型糖尿病の診断補助として、HLA(組織適合抗原)の解析を行い、正確な診断を下すとともに、インスリン強化療法の早期導入に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	経頭蓋的磁気刺激法による脳神経機能診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
経頭蓋的磁気刺激法は、非侵襲的に錐体路の機能を評価する方法であり、多発性硬化症や神經変性疾患等の診断に有用である。(神經内科)			
医療技術名	単一筋線維筋電図による神經・筋疾患の診断	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
単一筋線維筋電図は、神經接合部における伝達障害の最も感度の高い検査法であり、重症筋無力症の診断に有用である。(神經内科)			
医療技術名	遺伝性神經・筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
筋ジストロフィー、遺伝性ニューロパチー、神經変性疾患(脊髄小脳変性症、パーキンソン病)を対象として、FISH法、サザンプロット法、PCR法等による遺伝子診断を行う。(神經内科)			
医療技術名	眼瞼痙攣、痙性斜頸に対するボツリヌス治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
眼瞼痙攣、Meige症候群、痙性斜頸を対象として、ボツリヌス毒素の局所注射による治療を行っている。(神經内科)			
医療技術名	神經変性疾患に対する経図解磁気刺激療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神經難病を対象として、神經細胞に磁気刺激を与えることにより、神經機能の改善をはかる治療法。(神經内科)			
医療技術名	血管内治療	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要			
急性期脳血管の閉塞に対してカテーテルを用いて血腫を溶解、除去する。(脳卒中科)			
医療技術名	Chlamydia pneumoniae, Mycoplasma pneumoniae 感染症の遺伝子診断	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要			
Realtime PCR法を用いて定量PCRと、培養とシークエンスによる薬剤耐性の有無の評価を併用し、病因診断、病態解析、新規抗菌薬の治療の有効性を評価を行っている。(小児科)			
医療技術名	顔面神經麻痺原因ウイルスのPCRによる検討	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
PBMCからdouble nested PCRでVZV DNAを検出して関与を明らかにし、抗ウイルス薬にて早期改善できる。(小児科)			
医療技術名	婦人科良性腫瘍に対する腹腔鏡下手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
卵巣腫瘍や子宮内膜症に対して良性疾患であることを確認したうえで、腹腔鏡を用いて摘出、治療した。(産婦人科)			

医療技術名	産科および婦人科手術における自己血輸血	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
同種血輸血にともなうGVHDなど様々な弊害を回避するために手術直前に採取して代用血漿などと置換しておいた血液を戻す希釈式自己血輸血と2~3週間前に予め採血、貯血しておいた血液を使用する貯血式自己血輸血を、それぞれ単独または併用して行った。(産婦人科)			
医療技術名	レゼクトスコープによる子宮腔内腫瘍の手術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要			
子宮腔内に発生した子宮筋腫や内膜ポリープをレゼクトスコープを用いて摘出し、子宮の温存をはかった。(産婦人科)			
医療技術名	卵巣癌の集学的治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
卵巣癌に対して根治手術(単純子宮全摘術、両側附属器剥出術、大網切除術、骨盤および傍大動脈リンパ節郭清、虫垂切除術)ならびに化学療法を中心とした集学的治療を行った。(産婦人科)			
医療技術名	乳癌に対するセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	125人
当該医療技術の概要			
乳癌腫瘍の近傍および乳輪部皮下に色素およびフチン酸コロイドを注入し、センチネルリンパ節を同定し、腋窩郭清の省略を目指す術式。(乳腺甲状腺外科)			
医療技術名	乳癌に対する皮下乳腺全摘+テシュ・エクスパンダー充填術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
広範な乳管内の癌進展のために乳房温存が不可能な症例に対し、乳房の整容性を保つための術式。(乳腺甲状腺外科)			
医療技術名	出血性ショックに対する経カテーテル的塞栓療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
骨盤骨折による出血性ショック患者に対して、出血源を確認し、その中枢血管に対して選択的に経カテーテル塞栓療法を行なって止血する。(整形外科)			
医療技術名	術後回収式自己血輸血法	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要			
手術終了後、創部ドレーンからの流出血液を抗凝固性及び赤血球保護作用のある液体と混合。これを無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて、赤血球のみを集積、洗浄し、赤血球濃厚液として回収。これを自己血輸血として使用する。(整形外科)			
医療技術名	仮骨延長法による骨延長・変形矯正術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
創外固定器を用いて、徐々に四肢長管骨の延長や、骨・関節変形矯正術を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、骨移植を必要としない。小児には良い適応となる。(整形外科)			
医療技術名	自己血回収器具を用いた術中自己血回収	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要			
術中に自己血回収器具を使用し出血を回収。無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて赤血球を集積、洗浄し赤血球濃厚液として回収。これを自己血として使用する。(整形外科)			
医療技術名	インストルメンテーションを用いた脊柱再建術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
変形性脊椎疾患、脊椎の外傷、転移性脊椎腫瘍に対してインストルメンテーションを用いて脊椎再建術を行なう。変形矯正とともに強固な固定が得られ、早期離床が可能となる。(整形外科)			

医療技術名	顕微鏡視下腰椎椎間板ヘルニア摘出術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
顕微鏡視下手術手技を用いて、腰椎椎間板ヘルニア摘出術を行なう。この方法は低侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下腰椎椎間板ヘルニア摘出術	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要			
内視鏡視下手術手技を用いて、後方進入腰椎椎間板ヘルニア摘出術を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	経皮的椎間板摘出器具による脊椎炎持続洗浄療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
化膿性脊椎炎に対して、経皮的に病巣搔爬し、持続洗浄を行なう。この方法は最小侵襲手術であり、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	脊髄誘発電位測定	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要			
脊椎・脊髄の手術において脊髄誘発電位をモニタリングすることで安全に手術が行なえる。(整形外科)			
医療技術名	電磁波による骨電気治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
創外固定器のpinに電極を取付け、偽関節部の骨癒合を促進させる。(整形外科)			
医療技術名	マイクロサーボジヤリーを利用した各種血管付自家・複合組織移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
マイクロサーボジヤリーの技術を用いて、四肢組織欠損に対して血管柄付き骨、神経、腱、関節、筋肉、皮膚移植を必要に応じて行なう。これにより四肢、手指機能の再建が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	切断指(趾)に対する顕微鏡視下手術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
手指の組織欠損、足趾欠損に対して、顕微鏡視下でしか確認できない指動静脈や指神経を吻合、縫合し、再接着を行い本来の指趾機能を回復させる。(整形外科)			
医療技術名	膝関節鏡視下手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
関節鏡を用いて膝半月板損傷、棚障害、関節鼠に対して、鏡視下に縫合術や切除・摘出術を行なう。さらに関節内骨折に対する整復固定術や韌帯再建術も関節鏡視下に行なう。侵襲が少なく、術後の機能回復が早い。(整形外科)			
医療技術名	手関節鏡視下手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
関節鏡を用いて手関節内骨折に対する整復固定術や韌帯複合体再建術も関節鏡視下に行なう。侵襲が少なく術後機能回復が早い。(整形外科)			
医療技術名	マイクロサーボジヤリーを利用した各種血管付自家・複合組織移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
マイクロサーボジヤリーの技術を用いて、全身の組織欠損に対してさまざまな血管柄付き複合組織移植術を行った。(形成外科・美容外科)			

医療技術名	口唇顎口蓋裂に対する集学的治療	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
口唇顎口蓋裂患者に対し、形成外科、耳鼻科、矯正歯科、言語療法士による集学的治療を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	小耳症に対する自家肋軟骨移植術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
小耳症患者に対し、自家肋軟骨移植術を行い、良好な耳介の再建を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	顔面多発骨折に対する観血的整復固定術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
顔面多発骨折に対し、咬合、開口、眼球運動機能の改善と、整容的な改善を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	遊離複合組織移植術による口腔・顎・顔面の再建	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
頭頸部癌切除後の広範囲欠損に対し、皮膚・筋肉・骨(神経)を含めた遊離複合組織移植術により、形態と機能の回復を図った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	ICG蛍光法を用いたリンパ管-細静脈吻合術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
重度のリンパ浮腫患者に対し、ICG蛍光法を用いたリンパ管-細静脈吻合術を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	外傷性脳損傷による高次脳機能障害に対する包括的リハビリテーション	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要			
外傷性脳損傷による高次脳機能障害に対して、急性期リハビリテーションアプローチを行い、回復期・生活期には記憶障害・注意障害・遂行機能障害を中心とする高次脳機能障害に対する学習訓練プログラムを実施した。医師の指導の下で、コメディカルによる包括的アプローチが有効で、社会復帰に取り組んできた。(リハビリテーション科)			
医療技術名	嚥下障害者に対する客観的診断に基づく包括的リハビリテーション	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要			
脳血管障害をはじめとする嚥下障害患者に対して、嚥下造影ならびに喉頭内視鏡を用いて安全な摂食姿勢や誤嚥を生じにくい食品形態を評価し、治療手段と訓練方法を決定した。これらの診断法によって安全かつ有効なリハビリテーション医療を計画し、多職種連携による包括的なチーム医療を遂行した。(リハビリテーション科)			
医療技術名	発達障害を伴う言語発達障害児への包括的リハビリテーション	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要			
自閉症やアスペルガー症候群、注意欠陥多動障害を含む広汎性発達障害児、発達性言語遅滞、知的障害児、学習障害児、特異的言語発達遅滞など、言語発達の遅れを主訴とする患児に対して、多面的な治療手段を行った。遊びを取り入れた言語治療と感覚統合を主体とする作業療法、リハビリテーション医による親子相談、小児科や保育施設との連携など、包括的チームアプローチを推進することによって、社会性の育成とコミュニケーション手段の獲得に努めてきた。(リハビリテーション科)			
医療技術名	高度痙攣に対する神経ブロック	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
脳卒中や脳性麻痺、脊髄損傷などの中枢神経障害に伴う高度痙攣に対して、歩行機能やADLの改善を目指してブロック療法を行った。体表からの通電手技により運動点を探査し、同部に電極針を刺入して神経破壊剤またはボツリヌス毒素を注入するという特殊治療法で、痙攣を弱めることで日常生活動作が容易となつた。(リハビリテーション科)			

医療技術名	輪状咽頭筋弛緩不全に対するボツリヌス毒素を用いた嚥下障害治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
延髓外側症候群をはじめとする嚥下障害患者において輪状咽頭筋弛緩不全を呈する場合に、ボツリヌス毒素を輪状咽頭筋に注入する手法を用いて嚥下障害の改善を試みた。本治療によって大半の患者に摂食が可能となり、その有効性が確認された。(リハビリテーション科)			
医療技術名	C型慢性肝炎のインターフェロン治療効果予測の為の遺伝子診断	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要			
C型慢性肝炎に対するペグインターフェロン+リバビリン併用療法の治療効果予測のためinterleukin 28B遺伝子近傍の遺伝子多型を同定し、治療の適応の参考とする。(肝・胆・脾内科)			
医療技術名	肝細胞癌に対する肝動注療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
肝動注のためのリザーバーポートを皮下に植え込み、肝動脈内へのカテーテルを通して化学療法を行う。門脈腫瘍塞栓などを伴う高度進行肝細胞癌に対して約30%程度奏功する。(肝・胆・脾内科)			
医療技術名	体外式及び超音波内視鏡による消化管腫瘍の質的診断	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
食道癌、胃癌、大腸癌、粘膜下腫瘍の質的診断と、深部浸潤を体外式超音波と超音波内視鏡で診断するものであり、治療法及び予後の判定に用いる。(食道・胃腸内科)			
医療技術名	ITナイフを用いた消化管腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要			
消化管の腫瘍に対して、ITナイフを用いて内視鏡的に切除するものである。(食道・胃腸内科)			
医療技術名	胃癌リスクとしての胃炎診断	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要			
胃癌のリスクである胃炎の診断を、血中 H.pylori 抗体、ペプシノゲン、ガストリン、抗壁細胞抗体の測定により総合的に行うものである。(食道・胃腸内科)			
医療技術名	食道運動機能検査	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
LES圧、食道の収縮波、伝播様式をインフュージョンカテーテラーを用いて測定するもので、食道アカラジア、逆流性食道炎、PSSなどがその対象となる。(食道・胃腸内科)			
医療技術名	胸腔鏡補助下食道亜全摘術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
食道癌に対する鏡腔鏡補助下の食道亜全摘術。(消化器外科)			
医療技術名	LES・神経温存噴門部分切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
噴門部早期癌に対する神経温存の噴門部部分切除術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下脾尾部切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
脾尾部腫瘍に対する腹腔鏡下の脾尾部切除術。(消化器外科)			

医療技術名	黄斑浮腫・新生血管に対するアバスチン硝子体内注射治療	取扱患者数	91人
当該医療技術の概要			
網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫や高度近視性血管新生などに対して極めて効果のある治療法であるが、保険適応になつてない薬剤であるがために倫理委員会の承認を必要とする治療法である。(眼科)			
医療技術名	加齢黄斑変性に対するルセンティス硝子体内注射治療	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要			
近年、保険適応となった薬剤であるが、状態を把握する診断技術と複数回の適応時期判断が求められる先端的治療である。(眼科)			
医療技術名	黄斑変性・新生血管に対する光線力学療法	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要			
適応は限られるようになったが、学会の認定する資格を有する専門医以外は取り扱うことができない。(眼科)			
医療技術名	23G小切開硝子体手術	取扱患者数	338人
当該医療技術の概要			
従来の20G切開硝子体手術よりも眼に対する侵襲の少ない最近の手術技術である。(眼科)			
医療技術名	25G小切開硝子体手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
23G小切開硝子体手術よりもさらに眼に対する侵襲の少ない手術技術であるが、いずれの施設でも実施可能なものとは言えない。(眼科)			
医療技術名	内境界膜剥離術	取扱患者数	67人
当該医療技術の概要			
硝子体手術時の内境界膜剥離は黄斑円孔・黄斑浮腫などの治療成績を格段に向上させる技術となっている。(眼科)			
医療技術名	未熟児網膜症の眼科管理	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
1000g未満の超低出生体重児はラッシュタイプの未熟児網膜症が多く、その眼科管理は容易でないものがある。(眼科)			
医療技術名	進行頭頸部癌に対する超選択的動注放射線療法	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要			
進行頭頸部癌において、機能温存・生存率向上を計る治療法であり、セルジンガー法による腫瘍血管への抗癌剤動注と放射線同時併用を行う。(耳鼻咽喉科)			
医療技術名	硼素中性子捕捉療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
アシ酸代謝が亢進した癌細胞に特異的に集積するp-boronophenyl alanine(BPA)を用い、癌細胞に集積したB-10と原子炉から取り出された熱中性子を核反応させ、生じた高LET放射線(α粒子)により、癌細胞のみにエネルギーを集中させる治療法である。(耳鼻咽喉科)			
医療技術名	RIを用いた口腔癌の頸部センチネルリンパ節生検	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
口腔扁平上皮癌に対し、潜在性リンパ節転移を発見し、予防的頸部郭清術による障害を減らす目的で行う。原発腫瘍の周囲粘膜下に99mTcフチン酸を注入し、リンパ節シンチグラムを撮像し、リンパ流を確認する。プローブを用いてセンチネルリンパ節を同定、生検を行う。(口腔外科)			
医療技術名	口腔癌に対する超選択的動注療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
浅側頭動脈からカテーテルを挿入し、腫瘍の栄養血管を超選択的に同定し、このカテーテルを固定し持続的に抗癌剤を動脈内に持続的に注入し、放射線照射を併用してセルジンガー法による動注療法よりも高いCR率が得られる。(口腔外科)			

医療技術名	骨増生法を併用した顎骨インプラント義歯治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
高度な骨吸収を伴った顎骨に対し、自家骨移植による骨増生を図り同時にチタンインプラントを植立してインプラント義歯を作製する。(口腔外科)			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
コンピューター制御で治療ビームの強度を最適化することにより、従来の照射方法よりも低侵襲で高い根治性を実現できる。早期癌のみならず、従来は治療困難であった進行癌に対しても有用性が期待される。(放射線科(治療))			
医療技術名	橈骨動脈アプローチによる血管造影および血管内治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
腹部・骨盤部・下肢のカテーテル的血管造影・血管内治療は大腿動脈アプローチが主流だが、橈骨動脈アプローチにより深部静脈血栓症の合併低下や術後早期離床など低侵襲治療につながる。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	頭頸部癌に対する超選択的動注化学療法	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要			
頭頸部癌に対し、カテーテルを用いて超選択的に腫瘍栄養血管へ抗癌剤を動脈内投与することで、咽喉頭を温存しつつ治療する。放射線照射や全身化学療法を併用することで、咽喉頭切除と同等の局所制御が得られる。また、再発症例にも適応できる。(放射線科(画像診断))(耳鼻咽喉科)(放射線科(治療))			
医療技術名	末梢血管奇形(動静脈奇形・静脈奇形・リンパ管奇形)に対する血管内治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
切除不能な血管奇形(動静脈奇形・静脈奇形・リンパ管奇形)に対し、注射針やカテーテルを用いて硬化療法や血管塞栓術を行い、制御する。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	出血性ショックに対する血管内治療	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要			
腹部臓器損傷による腹腔内出血、骨盤骨折や腰椎骨折による後腹膜血腫、肋骨骨折による血胸、消化管出血、その他様々な出血性ショック状態に対し、カテーテル的血管造影で出血源を確認し、血管塞栓術・血管攀縮剤動脈内投与など出血量を減少させる。(放射線科(画像診断))(救急科)			
医療技術名	喀血に対する細径カテーテルシステムを用いた気管支動脈塞栓術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
従来、喀血に対するカテーテル的気管支動脈塞栓術は5-Fr前後の親カテーテルを用いていたが、大腿動脈穿刺孔の細径化により深部静脈血栓症の合併低下や術後早期離床など更なる低侵襲治療につながる。(放射線科(画像診断))(呼吸器内科)			
医療技術名	内臓動脈瘤および内臓動静脉瘻に対する血管内治療	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
腹部主要分枝動脈や内腸骨動脈の動脈瘤、肺動静脉瘻、腎動静脉奇形などに対し、カテーテルを用いて血管塞栓術を行うことで、切除術に比し低侵襲に治療できる。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	肝特異性MRI造影剤を用いた肝臓画像評価	取扱患者数	240人
当該医療技術の概要			
びまん性肝疾患や限局性肝疾患に対し肝特異性造影剤(Gd-EOB-DTPA)を用いて質的診断を深める。(放射線科(画像診断))(肝・胆・臓内科)			

医療技術名	脳定位放射線治療	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
専用の頭部固定具と治療計画装置を用いて位置精度を高め、病変のみにピンポイントで高線量を照射できる。転移性脳腫瘍のほか一部の原発性脳腫瘍、脳動静脈奇形などに有効な治療法である。1日で治療が終了することも利点である。(放射線科(治療))			
医療技術名	肺定位放射線治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
専用の体幹部固定具を用いて位置精度を高め、病変のみにピンポイントで高線量を照射できる。3cm程度までの肺野病変であれば手術に匹敵する治療成績が期待されている。入院は不要で、1週間の外来通院で治療が終了する。(放射線科(治療))			
医療技術名	核医学による局所脳血流量の定量	取扱患者数	257人
当該医療技術の概要			
I-123 IMP SPECTと持続動脈採血による局所脳血流量(rCBF)の定量は、脳血流シンチグラフィによるイメージのみでは評価が困難な瀰漫性の病変に対して、客観的なデータを供給できる。(放射線科(核医学診療))(神経内科)(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	アセタゾラミド負荷脳血流 SPECT 1日法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
脳血流SPECTの新しい画像再構成プログラム(quantitative SPECT: QSPECT)を用いて、同一日に連続して安静時と負荷時のデータを取得し脳循環予備能の評価を行う。(放射線科(核医学診療))(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	脳血流SPECTの画像統計解析	取扱患者数	746人
当該医療技術の概要			
脳血流SPECTの新しい画像統計解析法(easy Z-score Imaging System: eZIS)を用いて、脳表像と断層像について健常者画像データベースに対するZ値で表示する。(放射線科(核医学診療))(神経内科)(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	HIV-1の遺伝子診断	取扱患者数	41人
当該医療技術の概要			
リアルタイムPCRを用いてHIV-1 RNA量を測定し、一部の症例ではdirect sequencingにより塩基配列を決定し、薬剤耐性的診断や病態把握に有効であった。(中央検査部および血液内科)			
医療技術名	白血病・リンパ腫関連遺伝子診断	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要			
RT-nested PCRにより、白血病等腫瘍細胞の遺伝子診断を行い、治療効果判定や再発の早期発見に有用であった。(中央検査部および血液内科)			
医療技術名	大腸癌の抗癌剤感受性試験を用いたテーラーメイド治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
外科的に切除した大腸癌の組織を用い、抗癌剤感受性試験を行い、臨床治療の参考にしている。(中央検査部および消化器外科)			
医療技術名	赤血球增加症の遺伝子診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
患者末梢血検体からDNAを抽出し、direct sequencingにより塩基配列を決定し遺伝子診断をおこなうもので、赤血球増加症および類縁疾患の確定診断にきわめて有用であった。(検査診断学および血液内科)			
医療技術名	劇毒物分析	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要			
GC/MS, LC/MS, 蛍光X線解析装置, HPLC, ICP-MSおよび原子吸光分光光度計を用いて、原因不明の中毒患者の中毒物質の同定・定量を行い、治療に反映させる。(中央検査部および救急科)			

医療技術名	血中・尿中パラコート濃度の測定	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
パラコート中毒患者に対して高速液体クロマトグラフィー(HPLC)によるパラコートの定量を行い、治療効果の判定や予後の予測に役立てる。(中央検査部および救急科)			
医療技術名	組織化学染色	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要			
組織化学染色は、形態学を基盤として、組織を生化学的に検索し、正確な病理診断を下すための補助的検査である。主に筋肉代謝経路に関する酵素を組織化学的に検索し病変の診断に用いている。具体的にはATPase染色、ゴモリ染色、NADH-TR 染色などで筋線維のタイプ分類やミトコンドリアの集積を検索し、酸性フォスファターゼ染色は食食能力を示す細胞の検出に用いている。その他McArdle病の診断のためのフォスファターゼ染色や、垂井病の診断のためのフォスフォフルクトキナーゼ染色やデュシャンヌ型筋ジストロフィーと他の筋ジストロフィーの鑑別のために免疫組織化学染色(抗ジストロフィン抗体)を行っている。(病院病理部)			
医療技術名	電子顕微鏡検査	取扱患者数	54(院外10)人
当該医療技術の概要			
光学顕微鏡的に診断困難な症例を、電子顕微鏡的に詳細に観察し、正確な病理診断を下すための補助的検査である。特に細胞質内神経分泌顆粒、結晶様構造、細胞内外の線維構造、細胞接着装置、ウイルス粒子、菌体等の観察に用いられている。電子顕微鏡検査で、保険点数の得られる項目は、腎組織、甲状腺を除く内分泌臓器の機能性腫瘍、異所性ホルモン産生腫瘍、軟部組織悪性腫瘍、ゴーシェ病等の脂肪蓄積症、多糖体蓄積症及び心筋症に対する心筋の検索がある。また、保険点数が認められていないものでも、不妊症の精子の構造検索や筋肉や神経生検の微細構造から機能を把握することで病理診断の補助的役割を果たしている。(病院病理部)			
医療技術名	In-Situ Hybridization法(EBER)	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要			
Latent EBV感染の検索に蛋白質のレベルではなくRNA(EBウイルス Encoded Small RNAs[EBER])をPNAプローブを用いて検出する非常に特異性の高い検査である。EBウイルス感染に関連した悪性リンパ腫等(Nasal NK/T lymphoma,Hodgkin lymphoma,EBV-associated T/NK-cell lymphoproliferative disease, etc)に不可欠な検査である。(病院病理部)			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	54 人	・膿疱性乾癥	4 人
・多発性硬化症	36 人	・広範脊柱管狭窄症	7 人
・重症筋無力症	57 人	・原発性胆汁性肝硬変	40 人
・全身性エリテマトーデス	226 人	・重症急性膵炎	15 人
・スモン	16 人	・特発性大腿骨頭壊死症	27 人
・再生不良性貧血	36 人	・混合性結合組織病	18 人
・サルコイドーシス	40 人	・原発性免疫不全症候群	2 人
・筋萎縮性側索硬化症	19 人	・特発性間質性肺炎	7 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	189 人	・網膜色素変性症	17 人
・特発性血小板減少性紫斑病	98 人	・プリオント病	1 人
・結節性動脈周囲炎	44 人	・肺動脈性肺高血圧症	3 人
・潰瘍性大腸炎	192 人	・神経線維腫症	12 人
・大動脈炎症候群	34 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・ビュルガー病	78 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・天疱瘡	11 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2 人
・脊髄小脳変性症	52 人	・ライソゾーム病	1 人
・クローン病	144 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	14 人	・脊髄性筋委縮症	3 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	174 人	・球脊髄性筋委縮症	2 人
・アミロイドーシス	5 人	・慢性炎症性脱髓性多発神経炎	2 人
・後縦靭帯骨化症	35 人	・肥大型心筋症	7 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	21 人	・ミトコンドリア病	3 人
・ウェグナー肉芽腫症	2 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	30 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	39 人	・黄色靭帯骨化症	0 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	24 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・眼底三次元画像解析	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床部門と病理診断部門との症例検討会 1か月 20回程度 臨床部門と臨床検査部門との症例検討会 1か月 13回程度	
部 檢 の 状 況	部検症例数 51 例	/ 部検率 11.2%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
難治性血管炎に関する調査研究	種本 和雄	外科学 (心臓血管)	100 万円	補委 厚生労働省
糖尿病患者における心血管イベント発症に関する後ろ向きコホートに関する研究	種本 和雄	外科学 (心臓血管)	30 万円	補委 厚生労働省
加齢による腎機能低下のメカニズム:ミトコンドリア機能障害の意義	佐藤 稔	内科学 (腎臓・高血圧)	100 万円	補委 日本腎臓財団
経口糖尿病薬による糖尿病からの離脱および動脈硬化抑制研究	加来 浩平	内科学 (糖尿病・代謝・内分泌)	2,740 万円	補委 循環器学研究振興財団
経口糖尿病薬の臨床評価ガイドラインの策定及びその運用に関する研究	加来 浩平	内科学 (糖尿病・代謝・内分泌)	300 万円	補委 厚生労働省
筋疾患に対するマイオスタチン阻害療法の臨床応用基盤の確立	砂田 芳秀	内科学(神経)	1,250 万円	補委 厚生労働省
福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患のユニークな治療法開発と病態解明	砂田 芳秀	内科学(神経)	160 万円	補委 厚生労働省
筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	砂田 芳秀	内科学(神経)	710 万円	補委 厚生労働省
超急性期脳梗塞患者の救急搬送及び急性期病院受け入れ体制に関する実態調査研究	木村 和美	脳卒中医学	1,550 万円	補委 厚生労働省
我が国における脳卒中再発予防のための急性期内科治療戦略の確立に関する研究	木村 和美	脳卒中医学	100 万円	補委 厚生労働省
一過性脳虚血発作(TIA)の診断基準の再検討ならびにわが国の医療環境に則した適切な診断・治療システムの確立に関する研究	木村 和美	脳卒中医学	100 万円	補委 厚生労働省
脳卒中診療の均てん化のためのシステム構築研究	井口 保之	脳卒中医学	100 万円	補委 厚生労働省
国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	青木 省三	精神科学	40 万円	補委 厚生労働省
精神療法の実施方法と有効性に関する研究	中川 彰子	精神科学	110 万円	補委 厚生労働省
広汎性発達障害を伴う強迫性障害の特徴についての研究-有用な治療指針の作成のために-	山下 陽子	精神科学	40 万円	補委 メンタルヘルス岡本記念財団
我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究	寺田 喜平	小児科学	190 万円	補委 厚生労働省
日本人女性における乳がん罹患リスクに基づいた効率的な乳がん検診システムの確立に関する研究	園尾 博司	外科学 (乳腺甲状腺)	120 万円	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
本邦での乳癌検体におけるホルモン受容体、HER2受容体発想評価の精度管理システム構築に関する研究	紅林 淳一	外科学 (乳腺甲状腺)	150 万円	補委 厚生労働省
バレット食道の増殖評価法の確立	春間 賢	内科学(消化管)	150 万円	補委 財団法人がん研究振興財団
肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究	日野 啓輔	内科学(肝胆膵)	200 万円	補委 厚生労働省
血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	日野 啓輔	内科学(肝胆膵)	70 万円	補委 厚生労働省
C型慢性肝炎の鉄過剰状態が誘導するミトコンドリア障害とウィルス自然免疫排除機構の解析	是永 匡紹	内科学(肝胆膵)	30 万円	補委 両備櫻園記念財団
ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)を用いた悪性胸膜中皮腫に対する効果的治療法の開発研究	平塚 純一	放射線医学 (治療)	400 万円	補委 厚生労働省
HDR組織内照射等の標準化の研究:前立腺がんに対するHDR組織内照射の臨床試験の研究	平塚 純一	放射線医学 (治療)	100 万円	補委 独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費の研究事業
不育症治療に関する再評価と新たな治療法の開発に関する研究	勝山 博信	公衆衛生学	50 万円	補委 厚生労働省
特発性造血障害に関する研究	通山 薫	検査診断学 (病態解析)	100 万円	補委 厚生労働省

計 9

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 26

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncology Letters 1(1)	Phase I trial of oxaliplatin plus S-1 chemotherapy in patients with metastatic colorectal cancer	Yoshiyuki Yamaguchi	総合臨床医学
Oncology reports 22(5)	FOXP3 expression of micrometastasis-positive sentinel nodes in breast cancer patients	Yoshiyuki Yamaguchi	"
The Journal of Trauma 67(5)	Cardiac Contractility During Hemofiltration in an Awake Model of Hyperdynamic Endotoxemia	Satoshi Ishihara	救急医学
Current Drug Therapy 4(2)	Effective Use of Drugs to Counter Chemical Terrorism	Kouichiro Suzuki	"
Toxin Reviews 28(4)	Lessons learned from nerve agent attacks in Iran and Japan: Is it really necessary to stockpile oximes?	K.Suzuki	"
救急医学 33(4)	ヒスタミン	椎野泰和	"
日本航空医療学会雑誌 10(1)	岡山県ドクターへリにおける小児救急の現状	奥村澄枝	"
脳卒中 3(3)	急性期脳卒中患者受け入れ体制に関する全国病院実態調査研究(J.TEAMs study)	鈴木幸一郎	"
Journal of the American Society of Echocardiography 22(5)	Impact of Energy Loss Coefficient on Left Ventricular Mass Regression in Patients Undergoing Aortic Valve Replacement: Preliminary Observation	Tanemoto Kazuo	外科学 (心臓血管)
International Journal of Cancer 124(10)	Identification of CCDC62-2 as a novel cancer/testis antigen and its immunogenicity	Nakata Masao	外科学(呼吸器)
肺癌 50(1)	特発性肺線維症合併肺癌切除例における臨床病理学的検討	平見有二	"
Nephrology Dialysis and Transplantation 24(12)	Azelnidipine exerts renoprotective effects by improvement of renal microcirculation in angiotensin II infusion rats.	Fujimoto S	内科学 (腎臓・高血圧)
Journal of American Society of Nephrology 20(4)	C/EBP-beta modulates transcription of tubulointerstitial nephritis antigen in obstructive uropathy.	Kashihara N	"
Molecular Medicine Reports 2(5)	Combination therapy based on the angiotensin receptor blocker olmesartan for vascular protection in spontaneously hypertensive rats.	Naruya Tomita	"

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Molecular Medicine Reports 2(2)	High dietary protein intake induces endothelial dysfunction in uninephrectomized rats	Tamehachi Namikoshi	内科学 (腎臓・高血圧)
Microcirculation 17(2)	In vivo visualization of glomerular microcirculation and hyperfiltration in streptozotocin-induced diabetic rats.	Satoh M	"
The Journal of Physiological Sciences 59(5)	Reactive oxygen species mediate compensatory glomerular hypertrophy in rat uninephrectomized kidney	Hajime Nagasu	"
Circulation 119(20)	Smooth muscle Notch1 mediates neointimal formation after vascular injury	Minoru Satoh	"
Hypertension Research 33(2)	Telmisartan improves endothelial dysfunction and renal autoregulation in Dahl salt sensitive rats.	Minoru Satoh	"
Clinical and experimental nephrology 13(5)	Tonsillectomy and steroid pulse (TSP) therapy for patients with IgA nephropathy: a nationwide survey of TSP therapy in Japan and an analysis of the predictive factors for resistance to TSP therapy.	Sasaki T	"
Therapeutic apheresis and dialysis 13(3)	Zinc deficiency anemia and effects of zinc therapy in maintenance hemodialysis patients.	Horike H	"
Urology 74(2)	Effects of Purified Newly Developed Botulinum Neutoxin Type A in Rat Prostate	Teruhiko Yokoyama	泌尿器科学
西日本泌尿器科 72(1)	タムスロシン塩酸塩効果不十分の前立腺肥大症患者に対するエビプロスタット併用療法の有用性の検討	海部三香子	"
Leukemia research 34	Acute lymphoblastic leukemia (ALL) with t(8;14)(q11.2;q32) in an elderly patient.	Tasaka Taizo	内科学(血液)
Modern Pathology 23	Expression of sphingosine-1-phosphate receptor 1 in mantle cell lymphoma.	Sugihara Takashi	"
British Journal of Haematology 147(4)	High incidence of haemophagocytic syndrome following umbilical cord blood transplantation for adults.	Matsuhashi Yoshiko	"
Blood 114(8)	Impact of HLA disparity in the graft-versus-host direction on engraftment in adult patients receiving reduced-intensity cord blood transplantation.	Matsuhashi Yoshiko	"
Leukemia Research 33(9)	Philadelphia chromosome-positive acute myeloid leukemia (Ph + AML) treated with imatinib mesylate (IM): a report with IM plasma concentration and bcr-abl transcripts.	Kondo Toshinori	"

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
American Journal of Hematology 84(11)	Possible graft-versus-host disease involving the central nervous system soon after cord blood transplantation.	Matsuhashi Yoshiko	内科学(血液)
Pathology International 59(4)	Transformation from follicular lymphoma to high-grade B-cell lymphoma/leukemia with additional t(2;8)(p12;q24), with inverse expressions of c-MYC and BCL-2, and light-chain switch.	Mannouji Kiyohito	"
Endocrine Journal 56(5)	Addition of metformin to pioglitazone monotherapy improves overall glycemic control in Japanese patients with type 2 diabetes: a randomized double blind trial.	Kaku Kohei	内科学 (糖尿病・代謝・内分泌)
Endocrine Journal 56(6)	Effect of Metformin on Glycemic Control over 52 Weeks in Japanese Type 2 Diabetic Patients Insufficiently Controlled with Pioglitazone Monotherapy.	Kaku Kohei	"
Current Medical Research and Opinion 25(5)	Efficacy and safety of therapy with metformin plus pioglitazone in the treatment of patients with type 2 diabetes: a double-blind, placebo-controlled, clinical trial.	Kaku Kohei	"
Current Medical Research and Opinion 25(12)	Long-term effects of pioglitazone in Japanese patients with type 2 diabetes without a recent history of macrovascular morbidity.	Kaku Kohei	"
Diabetologia 52(8)	Replication study for the association of new meta-analysis-derived risk loci with susceptibility to type 2 diabetes in 6,244 Japanese individuals.	Kaku Kohei	"
Lancet 373(9675)	Voglibose for prevention of type 2 diabetes mellitus: a randomised, double-blind trial in Japanese individuals with impaired glucose tolerance.	Kaku Kohei	"
Cell commun signal 7	Activin signaling as an emerging target for therapeutic interventions.	Sunada Y	内科学(神経)
Muscle & nerve 41(1)	Magnetic resonance imaging diagnosis of panniculitis in dermatomyositis.	Hemmi S	"
The Journal of biological chemistry 284(23)	Membrane repair defects in muscular dystrophy are linked to altered interaction between MG53, caveolin-3 and dysferlin.	Sunada Y	"
川崎医学会誌 35(4)	MRL-MpJ創傷治癒形質導入はデュシェンヌ型筋ジストロフィーモデルマウスの骨格筋病変を改善する。	大澤 裕	"
Internal Medicine 48(11)	A pulmonary embolism caused by delayed-onset heparin-induced thrombocytopenia in a patient with ischemic stroke.	Aoki J	脳卒中医学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European journal of neurology 62(5)	Early Recanalization Rate of Major Occluded Brain Arteries after Intravenous Tissue Plasminogen Activator Therapy Using Serial Magnetic Resonance Angiography Studies.	Kimura K	脳卒中医学
Stroke 40(9)	M1 Susceptibility Vessel Sign on T2* as a Strong Predictor for No Early Recanalization After IV-t-PA in Acute Ischemic Stroke.	Kimura K	"
Cerebrovascular diseases (Basel, Switzerland) 28(5)	Number of stroke physicians is the key to preparing IV rt-PA. Cerebrovasc dis.	Iguchi Y	"
Internal medicine 48(18)	Plasma Brain Natriuretic Peptide as an Independent Predictor of In-Hospital Mortality after Acute Ischemic Stroke	Shibasaki Kensaku	"
Hypertension research 32(6)	Predictors of aortic complicated lesions in stroke patients	Kimura K	"
Journal of the neurological sciences 285(1-2)	Recanalization of the MCA should play an important role in dramatic recovery after t-PA therapy in patients with ICA occlusion.	Kimura Kazumi	"
脳卒中 31(6)	rt-PA治療における超音波併用療法の意義と現状	井口保之	"
Journal of the neurological sciences 290(1-2)	The combination of elevated BNP and AF as a predictor of no early recanalization after IV-t-PA in acute ischemic stroke.	Kimura Kazumi	"
臨床神経学 49(10)	急性期脳梗塞の洞調律患者における左房径拡大と発作性心房細動の検討	芝崎謙作	"
Journal of Neurosurgery 111(1)	Analysis of cerebral perfusion and metabolism assessed using positron emission tomography before and after carotid artery stenting	Matsubara S	脳神経外科学
こころの科学 (145)	【ADHDとLD】医療・保健福祉の現場から 子どもたちの生活を支える 精神科医の立場から	青木省三	精神科学
こころの科学 (146)	【うつ病は治るか】うつ病の治療を考える－薬物療法を行わなかった例を通して	青木省三	"
そだちの科学 (13)	【おとなの発達障害とともに】時代文化と発達障害	青木省三	"
そだちの科学 (13)	【おとなの発達障害と臨床】ボーダーラインと発達障害	和迩健太	"
そだちの科学 (13)	【おとなの発達障害と臨床】統合失調症と広汎性発達障害	鷲田健二	"
臨床精神医学 39(2)	1999年以降のイギリスにおける地域精神保健ケア政策の発展	松下兼宗	"

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Mainichi Medical Journal 6(1)	うつ病予防としての認知行動療法	村上伸治	精神科学
臨床精神医学 39(1)	クライエント中心療法のエッセンスを診療に生かす	青木省三	"
臨床精神医学 39(2)	ロンドンの地域精神医療 -ランベス地区とクロイドン地区におけるチームアプローチ-	松下兼宗	"
こころの科学 (149)	緩和ケアにおける面接	山田了士	"
精神科治療学 24(12)	境界性パーソナリティ障害 -出会い方と終わり方-	青木省三	"
精神療法 35(5)	広汎性発達障害と強迫性障害	中川彰子	"
精神療法 35(4)	思春期における薬と精神療法	青木省三	"
小児科診療 73(1)	思春期面接のすすめかた—思春期の子どもとの対話のしかた、関係性をいかに築くか、家族とのかかわり—	和迩健太	"
臨床精神医学 39(2)	自殺を実際に減らした英国の自殺予防対策	和迩健太	"
臨床心理学 9(3)	統合的心理援助の話 ふつうのこと・ひろがること・つなげること 統合的アプローチと思春期臨床(座談会)	青木省三	"
Japanese Journal of Infectionus Diseases 62(4)	Assay of Chlamydia pneumoniae-Specific IgM Antibodies by ELISA Method-Reduction of Non-Specific Reaction and Resetting of Serological Criteria by Measuring IgM Antibodies-	Kazunobu Ouchi	小児科学
日本化学会議学会雑誌 57(5)	Clavulanic acid/Amoxicillin(1:14) 小児ドライシロップの特定使用成績調査	尾内一信	"
Eur J Clin Microbiol Infect Dis 28(7)	Development and evaluation of a loop-mediated isothermal amplification method for the rapid detection of Chlamydophila pneumoniae.	Yamaguchi T	"
Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 73(10)	Development of a novel functional high-throughput screening system for pathogen effectors in the yeast Saccharomyces cerevisiae.	Kazunobu OUCHI	"
Japanese Journal of Infectious Diseases	Evaluation of false-positive reaction with ELISA for the detection of Chlamydophila pneumoniae-specific IgM antibody in adults.	Yamaguchi Tetsuya	"
Journal of clinical microbiology 47(5)	First case report of sepsis due to Rothia aeria in a neonate.	Monju A	"
Eur J Clin Microbiol Infect Dis 28(7)	Development and evaluation of a loop-mediated isothermal amplification method for the rapid detection of Chlamydophila pneumoniae.	Yamaguchi T	"

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
BMC Med Imaging 9	Radiographic features of Mycoplasma pneumoniae pneumonia: differential diagnosis and performance timing.	Yamaguchi Tatsuya	小児科学
J Infect Chemother 15(2)	The effect of inhaled corticosteroids on Chlamydophila pneumoniae and Mycoplasma pneumoniae infection in children with bronchial asthma.	Ouchi K	"
日本小児科学会雑誌 113(4)	小児市中肺炎に対するピペラシリンの有用性	寺西英人	"
川崎医学会雑誌 35(2)	新しいムンプスウイルスIgM検出EIA試薬の評価について	寺田喜平	"
jounal of Pediatric Surgery 44(7)	Does overgrowth of costal cartilage cause pectus excavatum? A study on the lengths of ribs and costal cartilages in asymmetric patients.	Nakaoka T	外科学(小児)
journal of pediatric surgery 44(5)	Successful reconstruction of communicating bronchopulmonary foregut malformation associated with laryngotracheoesophageal cleft.	Nakaoka T	"
日本小児外科学会雑誌 46(1)	超低出生体重児の胎便関連性腸閉塞症にたいする超音波ガイド下注腸療法の試み	中岡達雄	"
内分泌外科 26(2)	1腺が他腺に比して著しく巨大な腫大を呈した原発性副甲状腺機能亢進症を伴う多発性内分泌腺腫症(MEN) I型の1例	田中克浩	外科学 (乳腺甲状腺)
The Endocrinologist 19(3)	A Case of Euthyroid Graves Disease Which Developed Into Graves Disease With Thyrotoxicosis After Subacute Thyroiditis	Tanaka Katsuhiro	"
Breast cancer (Tokyo, Japan)	Clinicopathological analyses of triple negative breast cancer using surveillance data from the Registration Committee of the Japanese Breast Cancer Society.	Kurebayashi Junichi	"
癌と化学療法 36(5)	HER2過剰発現進行・再発乳癌に対するSalvage治療としてのIrinotecan HydrochlorideとTrastuzumab併用療法の検討	紅林淳一	"
Breast cancer (Tokyo, Japan) 16(4)	Possible treatment strategies for triple-negative breast cancer on the basis of molecular characteristics.	Kurebayashi Junichi	"
Cancer chemotherapy and pharmacology 65(2)	Preclinical rationale for combined use of endocrine therapy and 5-fluorouracil but neither doxorubicin nor paclitaxel in the treatment of endocrine-responsive breast cancer.	Kurebayashi Junichi	"
Breast cancer (Tokyo, Japan) 17(1)	Preoperative dynamic lymphoscintigraphy predicts sentinel lymph node metastasis in patients with early breast cancer.	Nakashima Kazutaka	"

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Journal of Dermatology 36(8)	Sentinel lymph node detection in skin cancer using fluorescence navigation with indocyanine green.	Nakashima Kazutaka	外科学 (乳腺甲状腺)
OS NOW INSTRUCTION	腰椎椎間孔狭窄症に対する内視鏡下椎弓根内進入椎弓根部分切除術	長谷川徹	整形外科学
川崎医学会誌	当科における人工股関節全置換術の長期成績と予後因子に関する研究	石坂直也	"
中部日本整形外科災害外科学会雑誌	非骨折性外傷後に繰り返し槌趾変形を呈した1例	大成和寛	"
中部日本整形外科災害外科学会雑誌	大菱形骨単独骨折の1例	大成和寛	"
日本口蓋裂学会雑誌 34(3)	川崎医科大学形成外科教室で初回手術を行った、口唇裂・口蓋裂患者の臨床統計的調査—2002年4月～2009年3月までの7年間—	山本真弓	形成外科学
Expert Nurse 25(11)	[現場に活かす：褥瘡予防・ケアの新しい知識]褥瘡の深さ鑑別のポイント、真皮に至る褥瘡かどうか？	篠山美香	"
耳鼻と臨床 55(Suppl 2)	重度の嚥下障害を呈したWallenberg症候群患者の筋電図所見	青柳陽一郎	リハビリテーション医学
THE GI FOREFRONT 5(Supple.)	【2胃癌の予防】(1)胃癌に対する一次予防～文献的reviewを中心に～	鎌田智有	内科学(消化管)
Hepatogastroenterology 56(93)	Are proton pump inhibitors really superior to famotidine in Japanese ulcer patients?	Haruma Ken	"
Medical Practice 26(5)	Barrett食道と食道腺癌—臨床的重要性と早期診断—	春間賢	"
Digestion 81	Hericobacter pylori Eradication Prevents Extension of Intestinalization Even in the High-Risk Group for Gastric Cancer	Shiotani Akiko	"
Journal of Gastroenterology Hepatology 24(8)	Meta-analysis used to identify factors associated with the effectiveness of proton pump inhibitors against non-erosive reflux disease.	Haruma Ken	"
Therapeutic Research 30(4)	逆流性食道炎はPPIでコントロール可能か？重症型逆流性食道炎124例の長期経過からの検討	春間賢	"
診断と治療 97(6)	抗潰瘍薬の使い方 各種抗潰瘍薬の使い方 H2受容体拮抗薬の使い方	鎌田智有	"
肝臓 50(11)	C型肝炎の診断と治療	日野啓輔	内科学(肝胆膵)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of clinical microbiology 47(5)	Distribution of hepatitis B virus genotypes among patients with chronic infection in Japan shifting toward an increase of genotype A.	Hino Keisuke	内科学(肝胆膵)
Nature genetics 41(10)	Genome-wide association of IL28B with response to pegylated interferon- α and ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Korenaga Masaaki	//
Journal of Gastroenterology 44(7)	Usefulness of Sonazoid contrast-enhanced ultrasonography for hepatocellular carcinoma: comparison with pathological diagnosis and superparamagnetic iron oxide magnetic resonance images	Korenaga Keiko	//
肝胆膵画像 11(6)	画像所見が得られた胆囊捻転症の1例	河瀬智哉	//
日本臨床 67(増刊号3)	肝癌—基礎・臨床研究のアップデート—X III. 肝癌診療と医療経済学 肝癌治療と医療経済学	日野啓輔	//
肝胆膵 58(5)	座談会—ここが知りたいウイルス性肝炎への抗ウイルス療法の問題点と将来展望	日野啓輔	//
Frontiers in Gastroenterology 14(3)	酸化ストレスからみたC型肝炎の病態	日野啓輔	//
医学のあゆみ 229(1)	酸化ストレスの抑制はC型肝炎の肝発癌を抑制しうるか?	吉岡奈穂子	//
胆道 23(4)	腺腫成分を伴わないIp型早期胆囊癌とIsおよびIIb早期胆囊癌が混在した1例	吉田浩司	//
日本消化器病学会雑誌 106(5)	胆囊二重造影により表面粘膜構造が明らかになった胆囊癌の1例	吉田浩司	//
医学と薬学 62(3)	慢性C型肝疾患の補助療法 一グリチルリチン製剤等 —	富山恭行	//
胆と膵 30(4)	膵上皮内癌の診断は可能か	吉田浩司	//
外科 71(10)	8. 胆囊癌の化学療法	浦上淳	外科学(消化器)
Kawasaki Medical Journal 25(1)	An ileal perforation after infliximab treatment for crohn's disease in a heart transplant patient:A case report.	Kazuki YAMASHITA	//
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Monthly Report 24(2)	がんの手術において、低侵襲の利点はどこにあるか 手術侵襲の癌転移促進作用(surgical oncotaxis)とその制御	平井敏弘	//
消化器外科 32(6)	食道癌に対する経横隔膜的食道切除術	松本英男	//

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床外科学会雑誌 71(1)	食道表在癌に対する開胸手術と非開胸手術の適応の検討	松本英男	外科学(消化器)
川崎医学会誌 35(1)	大腸癌術後孤立性脾転移を腹腔鏡下で切除した1例	奥村英雄	"
Kawasaki Medical Journal 35(1)	A trial of objective visual field measurement by pupillary reaction	Mizukawa Kenichi	眼科学
International journal of medical informatics 78(8)	What are the standard functions of electronic clinical pathways?	Wakamiya Shunji	"
Laryngoscope 119(11)	Membranous labyrinth volumes in normal ears and Meniere's disease : A three-dimensional reconstruction study.	Morita Norimasa	耳鼻咽喉科学
Otol Neurotol 30(7)	Vascular findings in the stria vascularis of patients with unilateral or bilateral Meniere's disease : a histopathologic temporal bone study.	Fukushima Hisaki	"
Otol Neurotol 30(3)	Vascular findings in the facial nerve canal in human temporal bones with diabetes mellitus.	Morita Norimasa	"
DIGITAL MEDICINE 7(6)	ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の現状と可能性—さらなる展開に向けた課題はなにか—	栗飯原輝人	"
頭頸部自律神経 23	マウス内耳発生におけるプログラム細胞死に関する生化学的検討	原田 保	"
日本鼻科学会会誌 48(2)	局所進行上頸洞癌における超選択的動注化学療法を用いた三者併用療法の検討.	兵 行義	"
耳鼻咽喉科臨床 102(04)	口腔癌に対する超選択的動注化学放射線同時併用療法	宇野雅子	"
口腔・咽頭科 22(2)	超選択的動注化学療法における口腔・咽頭機能の検討	秋定健	"
耳鼻咽喉科臨床 102(6)	内視鏡下視神経管開放術が奏効した外傷性盲の2例	宇野雅子	"
Anesthesia and analgesia 108(6)	Automatic algorithm for monitoring systolic pressure variation and difference in pulse pressure.	Fujita Y	麻酔集中治療医学
Journal of magnetic resonance imaging 29(5)	Evaluation of intraportal venous flow distribution by unenhanced MR angiography using three-dimensional fast spin-echo with a selective tagging pulse: efficacy of subtraction of tag-on and tag-off images acquired during a single breath-hold	Ito Katsuyoshi	放射線医学 (画像診断)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
DIGITAL MEDICINE 7(6)	ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の現状と可能性—さらなる展開に向けた課題はなにか—	平塚純一	放射線医学(治療)
Physics in medicine and biology 54(7)	A feasibility study of novel plastic scintillation dosimetry with pulse-counting mode.	Hiratsuka J	"
Legal medicine (Tokyo, Japan) 11(Suppl.1)	5HTT polymorphisms are associated with job stress in the Japanese workers.	Katsuyama Hironobu	公衆衛生学
Gene 436(1-2)	Abundant expression of Kallikrein 1 gene in human keratinocytes was mediated by GATA3.	Katsuyama Hironobu	"
International journal of molecular medicine 23(6)	Association between estrogen receptor α (ER α) polymorphisms and equol production, and its relation to bone mass.	Katsuyama Hironobu	"
International journal of molecular medicine 25	The effect of CAG repeat polymorphism in the glucocorticoid receptor on stress response of mice exposed to water-immersion restraint stress.	Katsuyama Hironobu	"
International Journal of Hematology 90(3)	Lenalidomide is active in Japanese patients with symptomatic anemia in low- or intermediate-1 risk myelodysplastic syndromes with a deletion 5q abnormality	Tohyama Kaoru	検査診断学(病態解析)
Leukemia Research 33(9)	Philadelphia chromosome-positive acute myeloid leukemia (Ph + AML) treated with imatinib mesylate (IM): a report with IM plasma concentration and bcr-abl transcripts.	Tohyama Kaoru	"
Breast Cancer 16(3)	Usefulness of immunohistochemistry for differential diagnosis between benign and malignant breast lesions.	Moriya T	病理学
Modern Pathology 23	Expression of sphingosine-1-phosphate receptor 1 in mantle cell lymphoma.	Nishimura Hirotake	"
Circulation Journal 73(6)	Frequency and spatial distribution of thin-cap fibroatheroma assessed by 3-vessel intravascular ultrasound and optical coherence tomography.	Sadahira Yoshito	"
Breast cancer (Tokyo, Japan) 17(1)	Preoperative dynamic lymphoscintigraphy predicts sentinel lymph node metastasis in patients with early breast cancer.	Moriya Takuya	"

計 12

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 角田 司
管理担当者氏名	病院事務部長 難波 徹

		保管場所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療資料部	外来・入院診療録は電子カルテ X線フィルムはPACS(医用画像保管・配信システム) (※H21.12.31以前は紙カルテで保管)
病院の管理及び運営に関する諸記録 従業者数を明らかにする帳簿 高度の医療の提供の実績 高度の医療技術の開発及び評価の実績 高度の医療の研修の実績 閲覧実績 紹介患者に対する医療提供の実績 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 第規一則号第一に一揚条十げる一體第一制一の項確及保びの第状九況条の二十三第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	総務部人事課 病院事務部病院庶務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	病院事務部医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	病院事務部医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部病院庶務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	病院事務部病院庶務課	
	院内感染対策のための委員会の開催状況	病院事務部病院庶務課	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	院内感染対策室	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 MEセンター	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	MEセンター	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 難波 徹
閲覧担当者氏名	病院庶務課長 大賀 孝子、医事課長 小林 宏規
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課(応接室)

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医 師 延 0 件
	歯 科 医 師 延 0 件
	国 延 0 件
	地 方 公 共 団 体 延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	54.4 %	算 定 期 間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
A : 算出根拠	A : 紹 介 患 者 の 数	12,269 人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,086 人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,282 人	
	D : 初 診 の 患 者 の 数	37,900 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 川崎医科大学附属病院における医療事故防止に係る安全管理の基準、規範となるべき事項を定め、解説して医療安全管理への取り組みの目的を明らかにするものである。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年36回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容： 医療安全管理に関する委員会は、まず院内の取り組みを総括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置し、その下部委員会として、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図る「リスクマネージャー連絡会議」を位置付けている。また、医療事故の発生事例に対処する「病院医療委員会」を設置している。<ul style="list-style-type: none">(1) 病院医療安全管理委員会：22回開催 病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討して決定する組織である。医療安全問題に関する現状の把握と院内情報公開に関する事。医療事故の予防と対策に関する事。安全医療を提供するためのマニュアルに関する事。医療安全管理の教育、研修と啓発活動に関する事。啓発活動としてニュースレターの発行、医療安全推進週間のポスター等の作成、医療安全カレンダーの作成。(2) リスクマネージャー連絡会議：10回開催 病院医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発する。 6つのワーキンググループを形成して定期的に会議（月1、2回）を行い、インシデント報告書のレビューを行う。インシデント報告内容については定期的にデータを評価する。再調査が必要な事例や、ニュースレターの原稿作成の基となる情報や職員への通達、啓発が必要な事項があれば各ワーキンググループから委員会議事録を持って医療安全委員会に要望・進言をする。年1回はワーキンググループが月単位で医療安全パトロールを実施し、ワーキング活動の検証を行う。(3) 病院医療委員会：4回開催 医療事故発生への対処を適切かつ円滑に実施するために病院運営委員会の小委員会で対処方法に関する事項を審議する。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年19回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 川崎医科大学附属病院のための基本的な考え方及び具体的な方策について職員に周知徹底するため、平成21年度は次の研修会を実施した。<ol style="list-style-type: none">4月リスクマネージャー連絡会：61名、リスクマネージャーの交代について、埋め込み型CVポート適正使用マニュアルの作成、CVセンター設立のためのワーキング立ち上げの経過説明、人工呼吸器回路内ウォータートラップ「注意シール」貼付5月リスクマネージャー連絡会：58名、平成21年度リスクマネージャー・ワーキンググループと医療安全管理者、医療安全管理委員会メンバーの交代「平成20年度ワーキンググループ活動報告」（前編） 852名6月リスクマネージャー連絡会：56名、シリンジ・輸液ポンプ新入職員研修報告、医療安全マニュアル総論版・各診療科版の改訂について6月「最近の医療をめぐる法的環境」 912名8月夏期セミナー「医療と法律」参加自由 197名7月リスクマネージャー連絡会：60名、第1回医療安全パトロール結果報告、人工呼吸器研修会案内8月リスクマネージャー連絡会：55名、職員教育講演会、マネジメント岡山支部会・中途採用者研修の案内 医療安全マニュアル総論版・各診療科版の改訂・差し替えについて9月「平成20年度ワーキンググループ活動報告」（後編） 858名 医療機器安全管理委員会の活動状況とご協力のお願い、MRI検査における安全性について9月「人工呼吸器講習会」 796名10月リスクマネージャー連絡会：61名、第2,3,4回医療安全パトロール結果報告、中途採用者研修、医療法第25条に基づく立ち入り検査の報告、私立医科大学相互ラウンドについて	

12. 10月「摺瘡の手術療法についてーその必要性と将来に向けてー」 776名
13. 10月「当院における医療安全管理・院内感染管理の取り組み」中途採用者・職員教育講演会前半未受講者対象 17名
14. 11月リスクマネージャー連絡会: 64名, 第5回医療安全パトロール結果報告, 手術・処置・損傷ワーキングのタイムアウトアンケートの結果報告, アクシデント事例から
15. 11月「医薬品の安全な取り扱い」 718名
16. 1月リスクマネージャー連絡会: 62名, 第6回医療安全パトロール結果報告, 私立医科大学相互ラウンド結果報告, 胃管カテーテル固定方法DVD作成・配布, CVポートマニュアルの配布
17. 2月リスクマネージャー連絡会: 63名, 医療安全マニュアルの1部改訂について, 救急カートアルゴリズム表の変更
18. 22年2月「安全な輸血のために」 755名
19. 3月リスクマネージャー連絡会: 56名, 医療安全マニュアルの1部改訂, リスクマネージャーの交代について, MRIポート/ヒューバープラスの取り扱いについて

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況

• 医療機関内における事故報告等の整備 (有) • 無)
• その他の改善の方策の主な内容:
1. ニューズレターによる情報の提供・広報・啓発活動(2回/月発行)
2. インシデント・アクシデント防止のために必要時注意・啓発目的でDVD・標語・ポスターの作成
3. リスクマネージャーワーキンググループ活動・医療安全パトロールからの情報・アクシデントの分析から対策案等をマニュアル化して医療安全マニュアルに追加する

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名) • 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (2名) • 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) • 無

- 所属職員: 専任 (2) 名 兼任 (2) 名
- 活動の主な内容:

1. 病院医療安全管理委員会と各部門から選出されたリスクマネージャーと連携を図り、効果的具体案を検討して、要望、意見、質問に対して対応をする。
2. 日本医療評価機構の認定更新のために患者の権利と診療の質および安全確保、医療の質と安全のためのケアプロセスについての評価や医療安全管理指針の改訂について検討する。
3. インシデント報告書に対するフィードバック→毎日の各部署の巡視、コミュニケーションと現状の把握のため、病院医療安全管理委員会、リスクマネージャーで1回/月病棟巡視を実施。
4. 医療マニュアル総論版(ポケットタイプ第4版)の改訂準備。
5. 安全医療を提供するための医療マニュアル(総論版、各診療科版)の改訂とその周知を図る。
6. 医療安全に関する職員教育講演会の計画、実施、評価。
7. 医療安全管理部発行の広報誌「ニュースレター」のより一層の充実をはかり、全職員に啓発活動を行う。
8. 医療安全管理部の活動をホームページで紹介し、内容の見直しを行う。
9. 医療安全推進週間の継続、毎年実施するイベントについて計画を立案。
10. 新入職員に関する医療安全教育の計画、実施。
11. 医療安全カレンダーを作成し啓発活動を行う。
12. インシデントをリアルタイムに把握し対応する。
13. 緊急事故発生報告書(アクシデント報告書)に対応する。
14. 病院医療安全管理委員会、リスクマネージャー連絡会議の資料を作成し、運用する。
15. 種々の安全管理に関する広報活動を行う。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) • 無
--------------------------------------	-----------

(様式第13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 院内感染対策の基本的な考え方、院内感染対策委員会とその基本事項、研修に関する基本方針、感染症発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、当該指針の閲覧およびその他院内感染対策推進のための必要な基本方針について記載している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容： 職種横断的に委員がおり、院内感染対策室の活動状況、ICTの活動、耐性菌の発生状況、抗菌使用状況、問題のある例などが報告され、協議検討されている。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年6回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 1回は外部講師による講演会、1回は院内講師で特にワーキンググループ活動で成功例について発表してもらっている。また中途採用者と未受講者を対象にした講演会を実施した。 新型インフルエンザに関して、全職員に対する説明会などで対応方法について別途、全職員に説明を実施した。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備その他の改善の方策の主な内容：	(有)・無
<p>毎週、院内の耐性菌発生状況が報告され、それによってICTのラウンドとは別に病棟ラウンドしている。またMRSAなど耐性菌の多い病棟や救命救急センター、クリーンルームのある病棟ではワーキンググループを作り活動し、MRSAが$\pm 1/3$に減少させるなど効果をあげている。</p>	

(様式第13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">新人薬剤師に向けて、新入職員研修プログラムに添った研修実施 (H21. 4)新人医師に向けて、医薬品の安全な取扱いに関する研修会 (H21. 4)新人看護師に向けて、医薬品の安全な取扱いに関する研修会 (H21. 4)医師対象に「抗がん剤の取り扱い」の研修会開催 (H22. 2)職員教育講演会「医薬品の安全な取り扱い」 (H21. 11)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 ((有)・無)業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">業務実施確認チェックリストを利用した医薬品の安全使用確認を半年に1回実施医薬品管理チェックリストを用いた病棟、外来処置室における安全使用確認を半年に1回実施	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無)その他の改善のための方策の主な内容：<p>医薬品安全管理委員会を設置し、医薬品に係る事故の防止及び適切な管理を行うために必要な対応を行うこととした。 院内で発生したインシデント・アクシデント報告は医療安全管理委員会経由で注射・内服・外用ワーキングチームで対応を検討し、更に医療安全管理委員会に上申、審議の結果を各職種から構成されたリスクマネージャー会議に提出され情報共有する。</p>	

(様式第13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(<input checked="" type="radio"/> 有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 9 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">新規導入された医療機器（人工呼吸器関連、生体情報モニタ、シリンジポンプ等）について定期的な研修として、人工呼吸器や血液浄化装置、保育器などの使用方法や不具合対応方法など各部署からの依頼に対して、MEセンターで個別対応による臨時実施など研修医、新人看護師を対象としたME機器研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 (<input checked="" type="radio"/> 有)保守点検の主な内容： 人工呼吸器、血液浄化関連装置、体外循環関連装置、保育器、除細動器、放射線関連装置、輸液・シリンジポンプなどについての日常点検及び定期点検の計画と実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有)その他の改善の方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">→医療機器安全管理委員会の定期的な開催による収集と広報、医療安全管理委員会との連携による職員への周知（職員教育講演会・ニュースレターなど）、院内電子媒体の利用（サイボウズ・電子メールなど）・自主回収の情報収集及び改善の方策の実施 →5件該当あり（電気メス、人工呼吸器、植え込み型ペースメーカー除細動器、X線CTなど）	